

文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ 新居氏の歴史をめぐる

講師 香川 将慶（高松市文化財課）

日時 令和2年1月19日（日）



共催

楠尾神社社殿

高松市歴史民俗協会

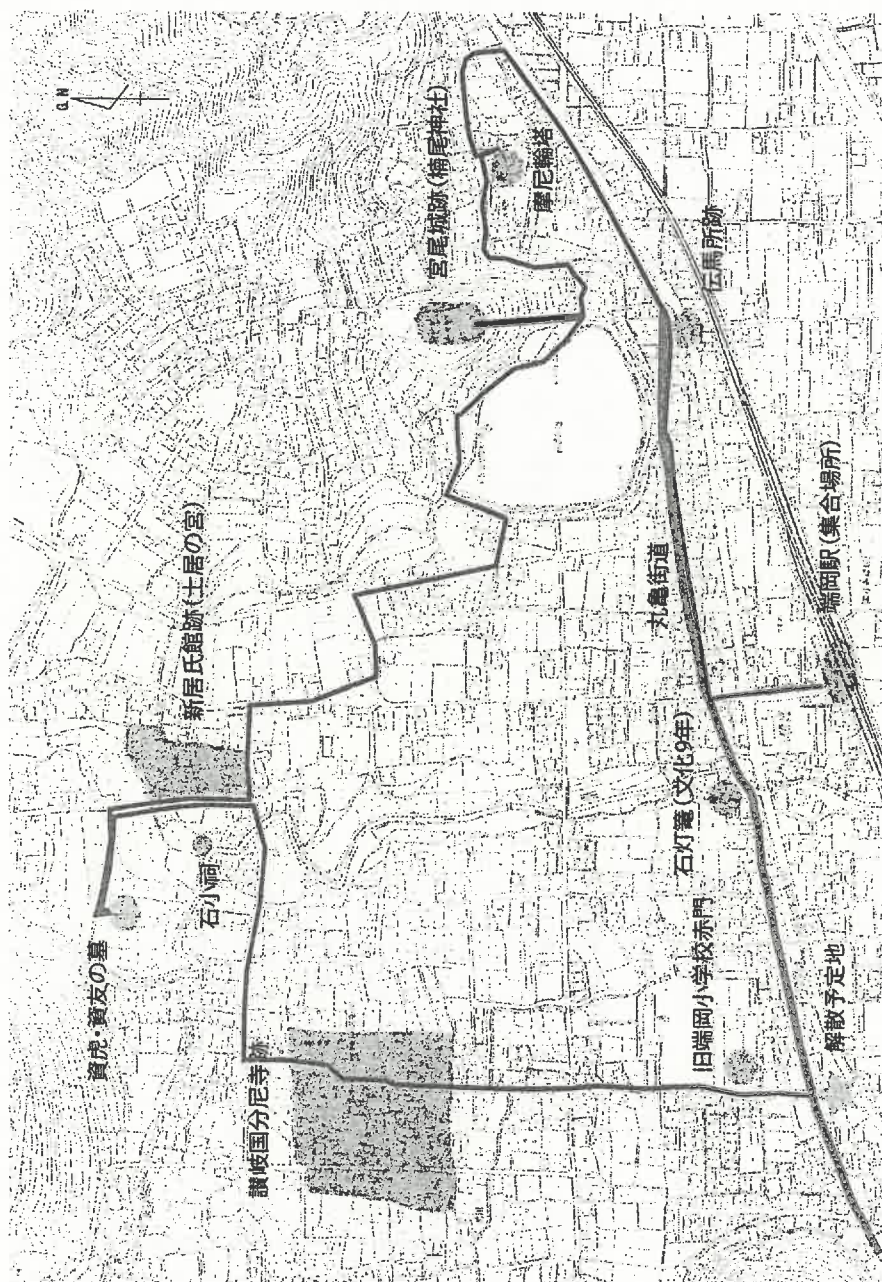
高松市文化財保護協会

高松市教育委員会

目

次

1	新居氏とは	・	・	・	1
2	新居氏の居館跡	・	・	・	4
3	新居氏の城跡	・	・	・	5
4	新居資虎・資友 (新居大隅守)の墓	・	・	・	8
5	摩尼輪塔	・	・	・	9
6	楠尾神社経筒	・	・	・	11
7	讃岐国分尼寺跡	・	・	・	13



第1図 新居地区周辺図

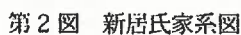
1 新居氏とは

① 新居氏の始まり

新居氏はもともと讃岐藤原氏の始祖である綾大夫章隆の四男資光（すけみつ）が国分・福家・畑田・陶・笠居の周辺を本拠にしたことが始まりと言われています。資光は藤太夫と号し、『南海通記』等によると元暦元年（一一八四）に源氏に味方し、旗頭となつて軍功を立て源頼朝の御家人となりました。その後、屋島の戦いにおいても一族を率いて源氏側として参戦しています。『吾妻鏡』によると、屋島の戦いの際に源氏に味方すると記した連署に「藤太夫資光」の名を筆頭に、続いて子息の新太夫資重（すけしげ）、子息新太夫能員（ただかつ）、藤次郎太夫重次（しげつぐ）等の新居氏一族の名が記されている。屋島の戦い以後は資光の長男資善（すけよし）は新居氏を継ぎ、次男資幸（すけゆき）は福家氏の祖、三男資村（すけむら）は香西氏の祖となった。四男資秀（すけひで）の次男である秀親（ひでちか）は万灯新居氏（のちの末澤氏）の祖となる等、中世に活躍する各一族の基礎となりました。

戦国時代の新居氏をうかがう史料は多くありませんが、国分寺町周辺では新居氏ははじめ、福家氏や末澤氏等が依然として勢力を誇っていました。天正年間（一五七三～九二）に土佐の長宗我部氏が讃岐へ侵攻を開始し、各一族は臨戦態勢をとり、新居大隅守資虎（すけとら）・資友（すけとも）の父子も戦いに参加しましたが、激戦の最中、新居館を打って出て討ち死にしました。

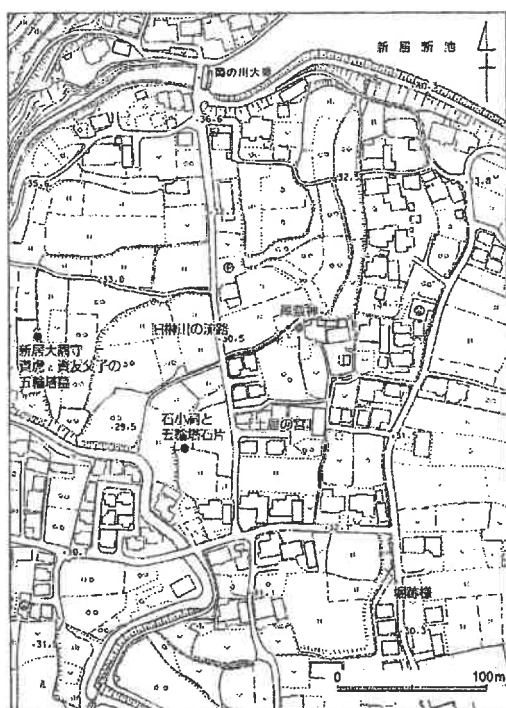
```
graph TD; A[藤原鎌足・不比等] --- B["(南唐) 武智磨"]; B --- C[家成]; C --- D[綾大領女]; D --- E[草隆]; E --- F[多度大領女]; F --- G[親隆 羽衣]; F --- H[新太夫]; F --- I[有高 父野氏祖]; I --- J[豊太夫]; I --- K[重高 羽床氏祖]; K --- L[資光]
```



2 新居氏の居館跡

新居氏に館は国分寺町新居中筋に「土居の宮」という名称があり、新居氏の居館跡と考えられています。この場所は周辺に比べ標高が高い微高地になっており、居住するには絶好の場所です。居館跡には屋敷神との小祠があり、周辺には多くの木々が茂っています。

居館跡南東側には「堀跡様」と呼ばれる細長い水田地が鉤型に残っており、堀跡と推測されています。屋敷神の北側は一段下がっており、かつては榊川の流路があり、北側と西側の守りになっていたことが想定されます。



第3図 新居氏館跡周辺図

3 新居氏の城跡

当時は居館（居住施設）と城（戦闘施設）の両者を造ることが多く、新居氏は「土井の宮」の居館のほかに宮尾城と詰城として新居氏砦跡（新居城跡）が築いています。

①宮尾城跡（楠尾神社）

宮尾城跡は現在の楠尾神社の境内に位置したと考えられています。城跡の遺構は神社や住宅地による改変で確認できませんが、袋山から延びる尾根の先端部に位置し、周辺よりかなり高い場所に位置していることから天然の要害であったと考えられます。

『全讃史』には「宮尾城 同村（阿野南新居）にあり 新居河内、之に居りき。新居藤太夫資村の裔なり」と記されています。『南海通記』には天正十年八月に土佐軍の侵攻に際し、「新居宮尾城ニハ作り旗ヲタテサセ」軍勢に見せかけたと記されています。また、その後の記事に宮尾城は大谷城とも表記されています。

楠尾神社は古代に忌部日下大人が祭神である玉依姫命を祀ったことが始まりとされて



写真1 楠尾神社参道



写真2 楠尾神社社殿



写真3 神社由緒石碑

います。欽明天皇の時、靈異があつて以来、楠尾八幡宮とたたえ新居郷の産土神（うぶすななみ）となったと言われています。天正年間に兵火に罹り、その後に再建されました。境内からは経筒が発見されています。周辺には旧馬場や摩尼輪塔がみられます。

②新居氏砦跡（新居城跡）

新居氏砦跡は新居氏館跡（土居の宮）から北西にある城山の頂上に位置しています。山頂には龍神祠があり、その南側にはわずかに傾斜を持つ矩形の曲輪が作られています。その他に、小曲輪等が多数残っており、城構えの様子が分かっています。



第4図 新居氏砦跡平面図

4 新居資虎・資友（新居大隅守）の墓

新居資虎・資友の墓は新居氏館跡から北西の位置にあります。現地には小高いマウンド状になっており、五輪塔が建てられています。現在のものは後世に建て替えられたもので、古い五輪塔は近くに放棄されています。五輪塔には「從五位下待從新居大隅守 第十二代資虎 嫡子資友之墓」「天正六年五月十五日七ツ時 土佐長曾我部元親卜戦ヒテ、国分ニテ戦死ス」と記載されています。



写真4 資虎・資友の墓

5 摩尼輪塔

摩尼輪塔とは、石造物の一種で仏道の苦しい修行に耐え、仏道を極めた者の位を表すものです。そのため、寺社仏閣などの聖域の境界を示し、そこに立ち入るものはこの場所です。馬などから降りることを示すものとなったと考えられ、後世にいう下乗石にあたります。

凝灰岩製で高さは二〇〇cmを超えます。方形の基石の上に、基壇を置く。その上に円輪までの範囲を塔身とよび、笠、露盤、請花、宝珠の各位からなります。

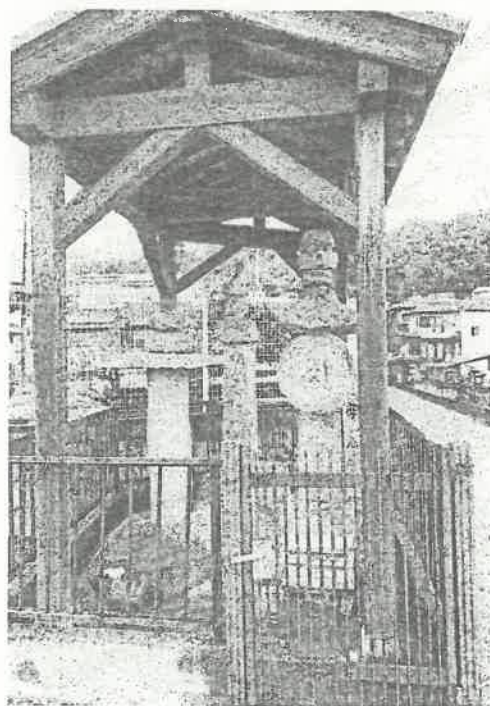
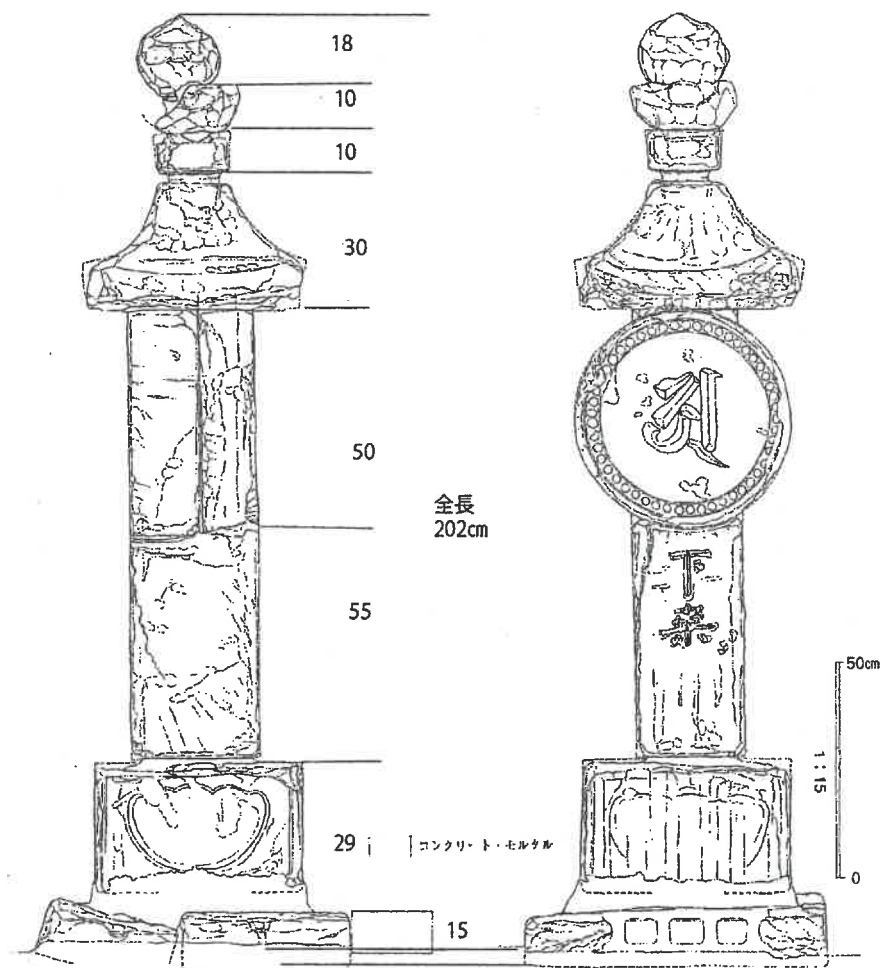


写真5 摩尼輪塔



第5図 摩尼輪塔実測図

6 楠尾神社経筒

経筒は明治二十三年（一八九〇）に現在の神社本殿の再建に際して、旧本殿の裏山を造成しているさなかに発見されました。『讃岐国名勝図会』の挿絵には楠尾神社本殿の背後に「宝塚」と呼ばれる大きな塚が描かれ、「社後にあり。往古宝を埋めしところなりとて石を置きたり」とあり、江戸時代には大きなマウンドがありました。

出土したものは銅板製の経筒七口、陶製外筒六口、仿製鏡一面、経石七個が出土し、刀身や銅板製経筒、陶製外筒蓋の破片が出土しました。経筒はいずれも近畿地方に多

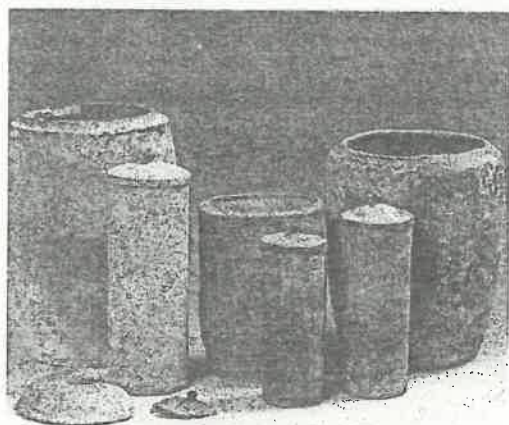
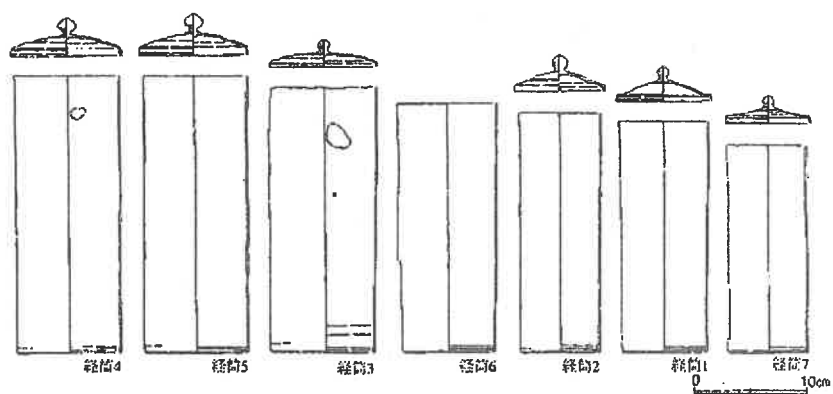


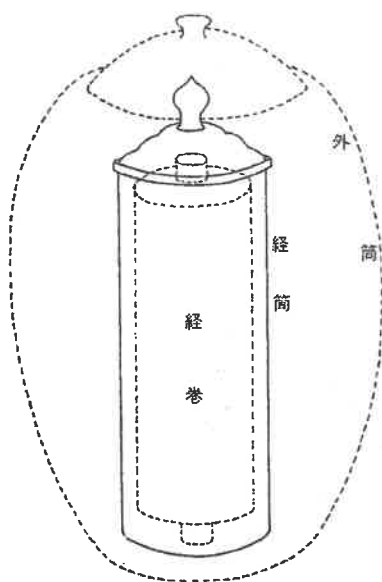
写真6 出土した経筒



写真6 出土した鏡



第 6 図 経筒実測図



第 8 図 経筒使用方法模式図



第 7 図 鏡筒実測図

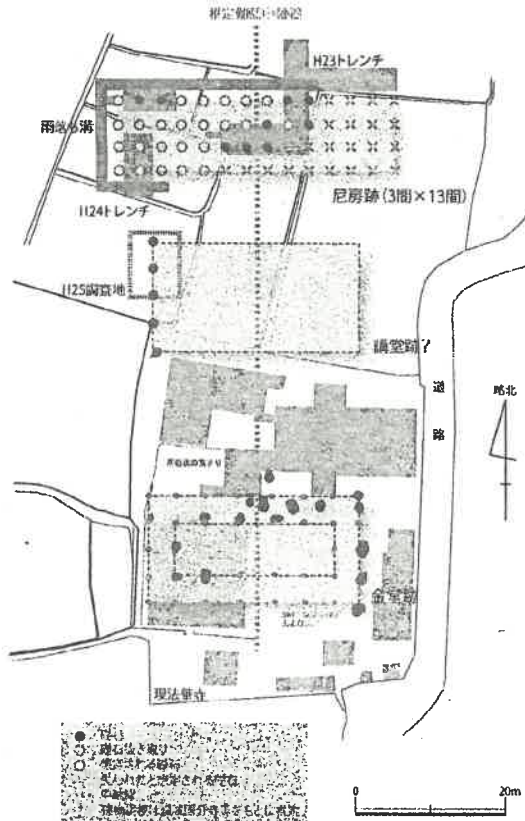
く分布する形式のもので、年代は十二世紀後葉〜十三世紀前葉頃と考えられます。経筒は平安京周辺で製作されて、讃岐もたらされたと考えられ、外容器は十瓶山窯（綾川町等）で生産されたものを使用していることから、在庁官人等の階層に位置する人々が経塚の願主や檀越として想定されています。

7 讃岐国分尼寺跡

讃岐国分尼寺は、正式には法華滅罪之寺と呼ばれ、天平十三年（七四一）に聖武天皇の詔勅によつて讃岐国分寺とともに建立され、鎮護国家、讃岐国における仏教の普及という大きな役割を担った国営の寺院でした。讃岐国分尼寺の詳細な履歴はわかりませんが、寛政七年（一七九五）に高松藩主松平頼儀によつて金堂礎石の北西隅に現在の観音堂が建てられました。弘化三年（一八四六）には町内の長明寺の住持、隆乗師によつて真宗寺院として復興され、法華寺と称する寺となったようです。その後、昭和三年に国の史跡に指定されました。

法華寺内には金堂跡の礎石が見られるほか、これまでの調査で講堂跡や尼房跡が発

見されています。尼房跡は礎石の多くが後世に抜き取られていましたが、比較的良好に残っている箇所も多く、東西方向が十三間（三・六×十三 計四十六・八尺）、南北方向が三間（三・九・四・五・四・五 計十二・九尺）の規模に復元できます。



第9図 尼寺伽藍配置図

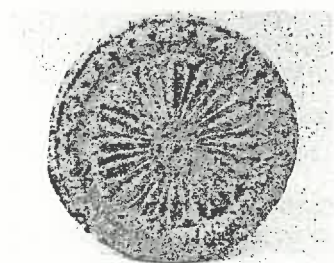
仁和二年（八八六）から寛平二年（八九〇）讃岐国司として赴任した菅原道真は、讃岐国分尼寺を訪れ、白牡丹の美しさを愛でて漢詩に詠んでいます。境内にはその漢詩を刻んだ石碑があり、現在も春には牡丹の花を見るこ



写真7 尼房跡検出状況



写真8 講堂跡検出状況



とができます。

写真9 発掘調査で出土した瓦類

法華寺白牡丹

色即為貞白

各猶喚牡丹

嫌隨凡草種

好向法華看

在地輕運縮

非時小雪寒

繞叢作何念

清淨写心肝



【意味】

色はとりもなおさず真つ白であるが、名はやはり丹とい

う字のついた牡丹とよぶ。普通の草なみに植えるのは好ましくな

い。牡丹の花はまさしく仏法の光華の象徴とみるにふさわしい。

地上に薄雲が凝り集まったかのようなのである。晩春だというのに時

ならぬあの雪が降ったかのようにその白さはそぞろ寒ささえ覚え

させる。白牡丹の植え込みの草むらをめぐりながらどういう念願

が私の心の中に沸き起こってくであらうか。私は牡丹の花の清淨

潔白な姿に私の心肝をうつし、注ぎたい。

・参考文献

岩波書店 1966『日本古典文学大系 七二巻 菅家文草菅家後集』

国分寺町史編纂委員会 1976『国分寺町史』国分寺町

国分寺町史編纂委員会 1977『国分寺町史・補遺』国分寺町

国分寺誌編纂委員会 2005『さめき国分寺町誌』国分寺町

国分寺町 1980『国分寺の文化財』

1月19日(日) 復路

・JR 予讃線

端岡(12:11 発)→高松(12:22 着)

☆次回のふるさと探訪は…

◎テーマ:「本島を歩く」

◎と き:令和元年2月16日(日) 午後0時40分～午後5時40分

◎集合場所:本島港

◎解散場所:丸亀港

◎参加費:160円(史跡 塩飽勤番所跡 見学料)

◎講師:信原 清さん(本島ガイド)

◎探訪距離:約5km

★アクセス

①フェリー(定員240名) 丸亀港(10:40 発)→本島港(11:15 着)

②旅客船(定員78名) 丸亀港(12:10 発)→本島港(12:30 着)

※満席で乗船できなくなる場合があります

★注意

HPはこちら!



・広報「たかまつ」2月1日号に開催案内を掲載予定ですが、詳細はホームページやチラシ(市役所本庁、各総合センター、支所、出張所等に設置)で御確認ください。

※お車で丸亀港へお越しの場合は、お近くの有料パーキングを御利用ください。

・小雨決行。当日、警報が発令された場合は、中止とします。

なお、中止かどうか御不明な場合、午前9時～正午に文化財課(TEL:087-839-2660)でお知らせします。電話が通じない場合は実施予定ですので、集合場所にお集まりください。

★当日の緊急連絡先(080-6388-2782) ※2/16のみ利用可能な番号です。

「ふるさと探訪」に参加される皆様へ

※参加中は、次のことに充分留意し、意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、
道路の端を一列で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気を付けましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気をつけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。